

日本政府への手紙

朝鮮労働党機関紙「労働新聞」2010年 8 月13日

過去の不幸な歴史をきれいに清算して国家間、人民間の真の和解と友好を企図することが国際的な趨勢になっている今日、過去日帝に強制連行され過酷な精神的肉体的苦痛と犠牲を強要され原子爆弾の被爆被害まで受けた朝鮮民主主義人民共和国の被害者と遺族は、日帝の敗亡65年「日朝併合条約」捏造100年に当たって平壤で日帝の反人倫的犯罪被害者の証言集会を開催し貴政府へこの手紙を送る。

日帝が「条約」等を捏造して朝鮮を不法に強制占拠したときから100余年が過ぎ、我々が日帝へ引っ張られてあらゆる民族的蔑視と虐待を受け奴隸的な徴兵生活と強制労働、性奴隷の生活を強要されて長い歳月が流れた。

だが日帝が我々の心身に与えた傷は一生の傷跡となって我々に甚だしい精神的苦痛と鬱憤を抱かせている。

日帝の侵略戦争遂行のために我々は一日に14～18時間ずつ耐え難い労働に苦しめられ、銃弾が降り注ぐ戦場に銃弾を受けに追い出され、朝鮮人女性は性奴隷として最前線まで引き出され一日に30～40人の日本兵に性暴行を受けなければならなかった。

それなのにあらゆる虐待と蔑視、過酷な暴行と飢えを強いられ多くの朝鮮人が人間の想像を超えた野獸的蛮行のため虐殺された。

徴兵、徴用令状一枚に父と兄、子どもたちを奪われ長い間生死も判らないまま遺骨も無い祭祀を行うとか、あるいは未だ生きているかもしれない肉親を探して胸を痛み、日本の地へ引っ張られて行って被爆までして不治の病に苦しんでいる人々がどれほどいるか分からない。

今でも目を瞑れば日本兵の虐待に怨念を抱いてたおれた我々の兄弟の姿がありありと浮かんできて、耳を傾けるとはるか異郷の山河、海、野原に捨てられている同胞たちの無主弧魂の耐え難い叫びが今も聞こえるようだ。

しかし、この苦痛と犠牲に対して日本政府は長々と65年もの間賠償を回避している。

日本政府はそのような不幸を招いた自らの行為を破廉恥にも正当化して美化粉飾している。

今日日本では朝鮮に対する強制占領に対しては勿論、強制連行と日本軍「慰安婦」犯罪に対して記述した教科書は唯の一件も見当たらない。

政府高官と政治家たちが先頭に立って朝鮮に対する軍事的強制占領を正当化して、御用学者たちが強制連行と「慰安婦」犯罪を公然と否認するなど甚だしい歴史歪曲が拡がっている。

日本政府と右翼勢力が主導する反共和国騒動に全日本社会が巻き込まれてしまい、日本の過去の犯罪の直接的被害者である在日朝鮮人を見境い無く差別して弾圧する妄動が合法的に、組織的に敢行されていることがまさに日本の現実だ。

日本のこのような仕打ちには、時間を引き延ばされ我々の被

害者が全て死亡するのを待って過去清算をあくまでも回避しようとする一方、軍事大国化を急ぎ立て「大東亜共栄圏」の古い夢を実現しようとする陰險な目的があるだけで他には考えられない。

例え我々被害者が皆死んだとしても清算されない日帝の反人倫的犯罪はいつまでも世の人々へ醜悪な日本の姿に映るだろうし、我々人民は世紀を隔てて蓄積された怨念を絶対に忘れず、その対価を必ずや支払わさずにはおかないだろう。

日本が時間を引き延ばして過去犯罪に対する謝罪と賠償を回避すればするほど、それに対する我々人民の怨念と憎悪はますます増大し後禍と代価も何倍にも大きくなるだろう。

朝鮮民主主義人民共和国の全被害者と遺族、人民は日本政府が840万余人に達する朝鮮人を侵略戦場と重労働へ強制連行し、100余万人を虐殺し、20万余の朝鮮女性を日本軍の性奴隷へ転落させた醜悪な犯罪に対する清算を今日までも執拗に回避していることに対して厳粛に抗議をして、一日も早く過去犯罪に対する謝罪と賠償に乗り出すことを今一度強く要求する。

日本が我々人民に対して犯した過去の犯罪に対する清算は、しても善ししなくても善しという問題ではない。

過去犯罪に対しては誠実かつ誠意をもって謝罪して賠償するのが日本政府の国際法的、道徳的な義務であり、必ず履行しなければならない歴史的、国家的責任だ。

日本政府が本当に国の前途のため、国際社会の一員として堂々と生きることを心から願うならば、過去の清算に対する全ての

被害者と人民の要求を受け入れ、被害者が生きている間に自分の責任と義務を果たすようにすることだ。

朝鮮民主主義人民共和国の全被害者と遺族を代表して日帝の反人倫犯罪被害者の証言集会に参加した被害者と遺家族一同

チュチュ99（2010）年8月12日 平壤

加藤和徳 訳 朴井愚 監修